

当流聖人章（五帖第十八通）

当流聖人の・すすめまします安心あんじんというは、なにのようもなく、ま
ず、わが身みのあさましき罪つみのふかきことをばうちすて、もろも
ろの雑行雑修ぞうぎょうざっしゆのこころをさしおきて、一心いっしんに阿弥陀如来あみだにょらいごしやう後生
たすけたまえと。一念いちねんにふかくたのみたてまつらんものをば、たとえ
ば、十人は十人・百人は百人じゅうにん なじゅうにん ひやくにん なひやくにんながら、みなもらさずたすけたまう
べし、これさらに、疑うたがうべからざるものなり、かようによくこころえ
る人ひとを、信心しんじんの行者ぎやうじやというなり、さてこのうえには、なおわが身みの
後生ごしやうのたすからんことの、うれしさをおもいださんときは、ねても
さめても、南無阿弥陀仏なもあみだぶつ南無阿弥陀仏なもあみだぶつと、となうべきものなり、
あなかしこ あなかしこ

当流聖人章の大意

親鸞聖人のご教化では、浄土真宗の信心とは、いかに自身の罪が深くとも、自力のはからいを捨て、後生をおたすけくださいと一心に阿弥陀如来におまかせすることです。そのものを、十人は十人、百人は百人、みなことごとく、阿弥陀如来はお救いくださるのです。このことはまったく疑いありません。

このようによく心得た人を、信心の行者というのです。信心を得た後に、自分が浄土に往生させていただくことのうれしさを思いたすときには、寝てもさめても、南無阿弥陀仏　南無阿弥陀仏と念仏すべきです。